

## コミュニケーションネットワーク研究室 1

## 1) 当該研究室の研究成果について

(\*) Excellent ( ) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

毎年コンスタントに論文を著している。特に2013年の数は11件とこの評価期間の1/3強となっている。査読付き国際会議も十分あり、相応のインパクトのある研究の成果が得られている。また、十分な受賞等の実績も評価できる。

## 2) 当該研究室構成員の学会活動について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

CS-STEIC2014 や DRRSC2019 を組織するなど、国際的に先導的な役割を果たしている。

## 3) 当該研究室構成員の社会貢献について

( ) Excellent ( ) Very Good ( ) Good (\*) Fair ( ) Poor

一部の教員が積極的に出前授業を行っているものの、他の教員について特筆すべきものはない。

## 4) 当該研究室の競争的資金の獲得状況について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

構成員の教員が積極的に科研費にアプライし、コンスタントに競争的資金を獲得している。さらに、韓国とのJSPS共同研究や、総務省、NICTなどの競争的資金を獲得し、研究の幅を国内外に広げていると考えられる。

## 5) 国際共同研究・連携研究・連携教育活動の実績について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

韓国中心に国際共同研究を積極的に進めている。国外からの学生も相応に受け入れ、博士課程、修士課程を修了していることは評価される。また、千葉工業大学や秋田大学など国内の関連研究室との共同研究も積極的に行っている。

## 6) 共同利用・共同研究拠点活動の実績について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

国内外の研究者と共同研究プロジェクトを立ち上げ、研究活動の拠点として積極的に活動している。

## 7) その他、総合的なコメント

木下教授を中心にした活動の下従来通り充実した活動を行っている。さらに若手の研究者が積極的に研究費の獲得や論文を著すなど活動しており、自由な雰囲気の下裾野の広い研究が展開されており、今後の進展が期待できる。

## コミュニケーションネットワーク研究室 2

## 1) 当該研究室の研究成果について

(\*) Excellent ( ) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

査読付き学術論文は、6年間に30件と十分な研究成果を上げている。特にIEEE Transactionなど水準の高い学術誌に掲載されている。エージェントの理論および応用の技術面で国際的に大きな影響を与えている。また、国際会議などに多くの発表を行っており、海外との研究交流を含めて国際共同研究に多大な貢献を行った。

## 2) 当該研究室構成員の学会活動について

(\*) Excellent ( ) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

査読付き学術論文30件および査読付き講演66件と活発な学会活動を行っている。そのほとんどが英語論文であり、国際的な場での学会活動に成果を上げている。また国際学術誌の編集長や編集委員を務めるなど国外、国内での学会活動は優れていると評価できる。また査読なしの講演は123件と研究会や全国大会に大いに貢献している。全体での学会活動の活発さは、優秀発表賞などの25件の表彰を受けているので、この学術分野で高い評価を受けている研究室であることが示されている。

## 3) 当該研究室構成員の社会貢献について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

高校と大学の連携授業などを行っている。また、研究の内容は、災害支援の技術研究を行っており、自治体や地域と連携して、災害時の被害を削減する共同実験を行うなど、地域に対する貢献が高い。

## 4) 当該研究室の競争的資金の獲得状況について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

科学研究費7件、受託研究費6件に上る競争的資金を獲得していることは、この学術分野での指導的研究室であることが示されている。さらに韓国の研究グループとの共同研究プロジェクトが立ち上げられ、そのための研究資金を獲得することにより、2国間共同研究の成果をあげるなど日韓共同研究への道を作り上げた。

## 5) 国際共同研究・連携研究・連携教育活動の実績について

(\*) Excellent ( ) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

日韓の情報技術分野の共同研究は、この評価期間を含む長い期間にわたって行われてきている。その成果として、日韓共同研究プロジェクトの遂行および、日韓を中心として国際論文誌を創設し、その中で指導的な役割を担ってきている。このプロジェクト成果は、近年注目を浴びているIoTやAIの連携分野を先導する役割を担い、このグループにより開設された国際論文誌に活発に発表されている。

## 6) 共同利用・共同研究拠点活動の実績について

( ) Excellent (\*) Very Good ( ) Good ( ) Fair ( ) Poor

当該研究室は、国内の大学の多くの研究室と連携研究の中心となる役割を果たしてきた。その研究グループを組織化するうえで、共同プロジェクト研究の制度を活用し、評価期間を含めて電気通信研究所での活発な研究会を開催し、多くの成果を上げてきた。

## 7) その他、総合的なコメント

当該研究室は、コミュニケーションネットワーク分野での日本の指導的な研究室としての役割を長い期間果たしてきた。近年では、IoT と AI の連携分野での先導的役割を果たしている。特に日韓での IoT/AI/Energy 分野での共同研究プロジェクトを創設し、この分野で大きな貢献を果たした。

## コミュニケーションネットワーク研究室 3

1. How would you evaluate the research activities in this period?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

Research activities are very good in their period.

2. How would you evaluate the activities of the members in the laboratory for the academic societies?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

Their activities for academic societies are excellent.

3. How would you evaluate the contribution of the laboratory to society?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

Their activities and contribution are excellent.

4. How would you evaluate the lab's level of funding?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

The fund was enough to study the area in detail.

5. How would you evaluate the lab's collaborative research, including international joint research and collaborative education?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

Their collaborative effort and contribution were excellent.

6. RIEC is one of Japan's "Joint usage/Research Center" or "Nation-wide Cooperative Research Projects" institutes. How would you evaluate the achievements of work done under this framework?

Excellent  Very Good  Good  Fair  Poor

Achievements of RICE were excellent.

7. Additional or overall comments

None.